

# あかるく かしこく たくましく

令和6年9月3日 No. 19 文責：校長 佐野紳二

## オリンピックの話

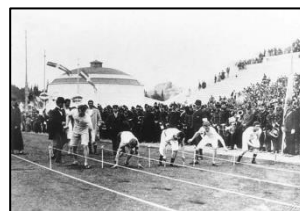
7月26日から8月11日までの17日間、フランスのパリで開催されたパリオリンピックでは、多くの日本人選手が活躍し、海外で行われたオリンピックでは過去最多となる20の金メダルを含む45個のメダルを獲得し、私たちに多くの感動と勇気を与えてくれました。山梨県からも金メダルを獲得したレスリング、グレコローマンスタイルの文田健一郎選手をはじめ、柔道の船久保遥選手、卓球の平野美宇選手など多くの選手が出場、活躍しました。私もオリンピック開催期間中は、毎日のようにテレビの前に釘付けになり、日本人選手の応援をしていました。(そのせいで、ちょっと夜更かしが習慣化してしまいました…)



4年に1度の機会でもありますので、今日の学校通信ではオリンピックの歴史について調べたことをちょっと紹介させていただきます。

◇ 夏季オリンピックは、近代オリンピックのうち夏季に行われる総合スポーツ大会。国際オリンピック委員会 (IOC) により開催され、正式名称はオリンピック競技大会。夏季五輪とも呼ばれています。

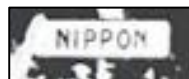
◇ 第1回夏季オリンピックは1896年にアテネで開催され、以後現在まで原則4年単位のオリンピックの第1年(4で割り切れる西暦年)に開催されています。ただし、戦争で中止となった事例(1916年, 1940年, 1944年)や、感染症流行により1年延期された事例(2020年)もあります。中止された大会も回数にカウントされ、今年行われたパリ大会は第33回大会でした。



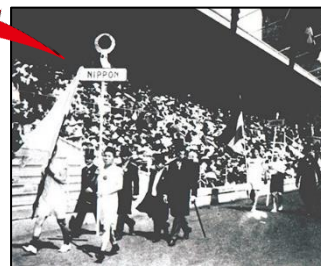
第1回大会・男子100m

◇ 第1回大会から全ての大会に参加している選手団は、ギリシャ、イギリス、フランス、スイス、オーストラリア(1908年, 1912年はオーストララシアとして参加)の5か国のみです。

◇ 第1回大会に参加したのは14カ国、選手は241名で男子のみの参加でした。今回のパリ大会には207の国と地域から最大10,500人の参加が予定されていました(実際に参加したアスリートの数は、現時点では不明です)。



◇ 日本が初めてオリンピック夏季大会に参加したのは1912年に開催されたストックホルム大会で、参加した選手は2名(いずれも陸上競技)でした。入場行進の際、プラカードには「JAPAN」ではなく「NIPPON」と書かれていました。



◇ オリンピック夏季大会はこれまでに24の都市で開催されています。東京をはじめ、いくつかの都市では複数回行われていますが、今回オリンピックが開催されたパリでは3回目の開催となりました。パリの他にもロンドンで3回の夏季オリンピックが開催されています。

◇ これまでに最も多くの金メダルを獲得した国はアメリカ合衆国で、前回東京大会までに 1063 個の金メダルを獲得しています。個人で最も多くの金メダルを獲得したのはアメリカ合衆国のマイケル・フェルプス選手（競泳）で、何と 1 人で 23 個の金メダルを獲得しています。2 位のラリサ・ラチニナ選手（ソビエト連邦・体操）の金メダル獲得数が 9 個なので、23 個という数字がいかにすごいかが分かり



ます。ちなみに、日本のこれまでの金メダル獲得数は 169 個、個人最多は体操の加藤澤男選手の 8 個です。

◇ 第 1 回のアテネ大会で最初に優勝してメダルを受け取ったのは、陸上・三段跳びに出場したアメリカ合衆国のジェームス・コノリー選手で、13m71cm の記録で見事に優勝しました。（第 1 回大会は資金不足のため高価な金のメダルは作られず、1 位には銀メダルが与えられたそうです）

◇ 第 1 回アテネ大会、陸上の 100m 走の優勝者はアメリカ合衆国のトーマス・バーク選手で、タイムは 12.0 秒でした。この時、バーク選手は出場者の中で唯一「クラウチングスタート」を使用し、その後、クラウチングスタートは世の中に一気に広がりました。

◇ 日本人選手が初めてオリンピックでメダルを獲得したのはテニスで、第 6 回アントワープ大会で熊谷一彌選手が銀メダルを獲得しました。金メダルを初めて獲得したのは陸上・三段跳びの織田幹雄選手で、1928 年アムステルダム大会で見事金メダルを獲得しました。



◇ オリンピック最年長メダリストはスウェーデンのオスカー・スバーン選手で、1920 年に行われたアントワープ大会の射撃で銀メダルを獲得したのは 72 歳の時でした。同選手は 8 年前のストックホルム大会では、64 歳で金メダルに輝いており、こちらも金メダル獲得の最年長記録となっています。

◇ これまでに数多くの競技が行われてきた夏季オリンピック大会ですが、過去には綱引き（第 2 回～第 7 回）、彫刻（第 5 回～第 24 回）、モーターボート（第 4 回大会）などが実施されたこともあります。また、第 1 回大会から現在までずっと続いている競技は意外と少なく、陸上・水泳・自転車・体操・フェンシングの 5 競技のみです。

◇ 南アルプス市出身のオリンピック選手は 3 人。陸上 400m ハードルの野澤啓佑選手（リオデジャネイロ大会）、ホッケー女子の藤尾（旧姓千葉）香織選手（ロンドン・北京・アテネ大会）、女子バレーボールの河西昌枝選手（第 1 回東京大会）の 3 名で、河西選手は見事金メダルを獲得しています。

いかがでしょうか？別に知っていたからどうということもない情報かも知れませんが、「知る」ことでこれまでと見方がちょっと変わり、楽しめることが増えるということもあるかと思います。個人的には、綱引きや彫刻なんていう競技も見てみたいなあ…なんて思いました。

その道を究めようと頑張ってきたアスリートが、勝利を目指して頑張っている姿には（オリンピックに限らず）感動させられます。8 月 28 日からはパラリンピックも始まっています。すでにくつつかの競技でメダル獲得のニュースが伝わってきていますが、こちらもオリンピック同様、テレビ画面越しに声援を送ろうと思っています。

